

「15年申し込んでも入れない」伏古団地2018年から建替え90戸減……市営住宅建て替え(2000年以降)で、97棟1264戸削減

2016年第3回定例会決算特別委員会で、太田議員は「市住の戸数は現状維持」としながら、建替え後、戸数が減っている問題について質問しました。本市の住宅マスタープランでは市住の戸数を減らす計画になっておらず、申し込み倍率は依然高いまです。2014年の資料では全体で申し込みが4877人、当選者は169人。12年以上申し込み続けても当たらない人が120人以上いたことを示し、建替えによって減らした分は計画的に戻すべきと求めたのに対し、担当部長は「建替えによる削減で入居を希望している市民に影響があってはならない。慎重に検討したい」と答弁しました。

市住の駐車場について、利用率100%の団地は1ヶ所しかなく、一方、空きがあるのに駐車できるクルマの幅が1.8m規定のため、2cm大きいだけで民間の駐車場に入れている入居者がいることを紹介し、工夫をして駐車できるようにすべきと求め、部長は「大型車も増えており、今の運用のまま検討したい」と答弁しました。



伏古団地を調査

東雁来子育て住宅改善前進

第3回定例会市議会の議案の中に東雁来団地3号棟新築工事にかかる案件がありました。第1回定例会委員会で3号棟建設にあたって、一戸ずつの間取りを大きくし駐車場を増やすこと。子育て世帯に限定しないことなどを質問しました。検討の結果、3号棟建設時に1～3号棟共用の駐車場を新設し、一部対面式キッチンタイプを導入するなどの工夫がされました。

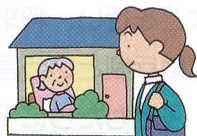


さわやか収集と安否確認の利用条件緩和を

ごみ出しが困難な高齢者や障がい者の方の自宅を訪ね、ごみを収集し、希望があれば安否確認もしてくれる、札幌市の「さわやか収集」サービスは、当事者や家族に喜ばれ利用が増えています。札幌市は、ごみ出しができないことを客観的に判断するため、介護認定を受け、ホームヘルパーを利用していることを条件にしています。昨年10月時点で、要介護認定者の2割が介護サービスを利用していません。

その中には、生活が苦しいためヘルパーを利用せず、家族で支え合っている人もいます。

ヘルパーを利用していなくても、ケアマネージャーがついている人は、ケアマネに確認すれば、ごみ出しが困難かの判断はできますので、柔軟に対応すべきと求めています。



太田秀子です



今朝の宣伝に差し入れ、暖かい飲み物でなくて暖かい手袋、どっピンク(°。°)！おそろいの手袋でホックリ(^。^*)宣伝終了(フェイスブックより)

誰もが安心して暮らせる札幌に

就学援助入学準備金

「来年(2017年)から、中学校入学準備金は入学前の3月支給 決定」

本市では毎年約2万世帯が就学援助制度を利用していますが、後払いのため入学準備金の支給が入学後の6月になっています。

太田議員は、市議会議員になった昨年からの入学準備金の入学前支給を議会で繰り返し求めてきました。

文部科学省から「必要な時期に速やかに支給するよう」通知もでています。

2016年11月の委員会で、日本共産党平岡議員の質問に副市長は「ランドセルなど、必要なお金は入学前に支給することが好ましい。どのように対応できるか早急に検討していきたい」と答え、12月第4回定例会で、教育長が「就学援助世帯への中学生の入学準備金について、支給時期を6月から3月に変更する」と言いました。



小学生の入学準備金も、あらたに予算を組むものではなく、支給時期を早めることで実現できますので、早急を実現するよう求めています。

学期分のバス定期交換を認めて

「義務教育児童生徒遠距離通学助成金」

校区が広くバス通学を余儀なくされている児童・生徒に定期代が助成されています。

保護者はサピカ発行時のデポジット(預り金)を負担し、その後、1ヶ月ごとに通学定期料金の助成を受けに行きます。せめて夏休みまで、学期ごとなどまとめて交換できるようにしてほしいという声がよせられ、議会で取り上げました。担当部長は「落としたら困る」「バス会社のシステムの問題」と答弁しましたが、「1ヶ月分の助成でも落とした場合再発行しておらず、システムは会社の問題。バス会社と本市の協定内容からみても、本市の決断でできるのではないか。遠距離通学をせざるを得ない子どもや保護者の声にこたえるべき」と質問し「検討する」と前向きに答弁しました。



太田秀子事務所だより

日本共産党 2017年1月号

札幌市東区伏古4条3丁目4-30
☎ 786-0011
Fax 792-8171

ご相談・ご意見がありましたら事務所までお寄せください



日本共産党札幌市議会議員
太田秀子



地域要求実現に向けて奮闘



議会見学の要望に応じて
本会議場見学



地域の要求で道路整備の現地見学



11月7日 アスベスト断熱材問題で緊急申し入れ、副市長が対応



雪解けや大雨になると畑・敷地が冠水してしまう。
市街化調整区域であるため整備が進展しない



地域夏祭りに参加

太田事務所相談から

40代労働者、体調をこわし働く事が出来なくなり失業して相談に来られました。

医療費は「無料・低額診療」を使えるように相談し、健康が回復するまで生活保護を受けました。安心して治療に専念し、回復して働く日

を楽しみにしています。

非正規、不安定雇用が増え、心配を抱える人も増えています。一人で悩んでいないで、気楽にご相談ください。

「市民向けパンフレットに ガソリン代 年間8000円の節約」?? ムダな都心アクセス道路 建設費1000億円は中止を

太田議員は、2015年第2回定例会特別委員会で、都心へのアクセス機能強化を目的に北3条通りから札幌新道(約4km)を結ぶ「都心アクセス道路」のための調査費が計上されたことについて質問しました。市が実施した交通量と混雑度の調査を示し、「創成川通りは、混雑度が最低ランクで、渋滞やそれに伴う極端な遅れはほとんどない。札幌市行財政改革のもとで、保育料の値上げ・市営住宅家賃減免制度の見直し・国保料の値上げなど市民負担を増やしながら、1000億円規模(市負担200億円)の道路建設はやめるべき」と求めました。

2016年第3回定例会で日本共産党市議団は、本市は市民向けパンフレットで「アクセス道路で買い物消費額年間16億円増、ガソリン代年間8000円の節約」と書いていることを質しましたが、その根拠は示せず「道路をつくりたい側の宣伝でしかない。正しい情報を提供し市民の意見を聞くべき」と求めました。



アクセス道路より 国保料の引き下げを 30億円あれば1万円下げれる

国保料が高くて払えない世帯が多いことは、市のデータでもあきらかです。札幌市は、国の支援金をひき下げに使わず、一般財源からの繰り入れを削減しました。住民運動がみのって、国保料を下げた自治体もあります。札幌でも実現できるようにがんばりましょう。

「子どもたちに平和を」

こどもの居場所を2ヶ所視察しました。ひとつは少年鑑別所、もうひとつは子ども食堂です。

いろいろな事情は違いますが、地域のコミュニティーや人のつながりが、薄くなっていることをあらためて痛感しました。

中学3年生に、陸上自衛隊高等工科学校の紹介文章が配布された学校がありました。工科学校は、授業で実弾射撃訓練などを行い、将来の自衛官を養成する学校です。教育委員会に配布の実態調査と中止を申し入れました。経済的徴兵制という言葉聞くようになり、平常心ではられません。

子どもたちに平和憲法を渡したい、希望の持てる未来を作りたいと強く思いました。



子ども食堂懇談